

金沢大学大会

木村佳司

2002年4月4日 石川県加賀市 加賀海岸

「ドキドキして眠れない」
オリエンテーリングを始めた頃のあのドキドキした気持ちをなぞっている小学生の息子がうらやましく思えてくる。

オリエンテーリングってワクワクするよね。

「おとうさん、ドキドキしてなかなか眠れなかったんだよ。」

金沢大学大会の朝、息子が言う。

「京都のオリエンテーリングではグループで7位だったんだ。でも今日はがんばって3位に入ってメダルをもらうんだよ。そう思うとドキドキして眠れなかったんだよ。」

「じゃあ今日はがんばってみようか、きっと3位には入ることができると思うよ。でも3位に入ってもメダルがあるかどうかは分からないよ。」

先日京都で行われた全日本大会に、トリム家族組で出場した息子が、割と平凡な成績に終わってから、妙に成績にこだわるようになってきました。やはり大会に出るからには良い成績が取りたい！この思いは子供も大人も変わりません。

加賀のトレインは難しい？

さて、私は息子のトモヨシ君(8歳)と一緒にグループクラスに参加しました。アップダウンの少ない4kmのコースは、グループコースとしては最適な設定。かなりテクニカルなトレインなのですがちゃんと難易度を抑えてうまいセッティングされていました。地形らしい地形が無い今回の海岸トレインは道さえはっきりしていれば、意外と初心者向きなのかもしれません。

初心者ではほとんど茶版が読めないのが、加賀の微地形も恐くはありません。

トレインの中に定規で引いたようにまっすぐに伸びる小道。これをきちんと使えば簡単、簡単。直進が一部あったとしても、平坦で走行可能な場所ばかりなので、テクニックも特に不要で、ただまっすぐにコンパスに従うだけなのです。

1位になるとやる気でるよね

トモヨシ君、1番コントロールから俄然張り切って、走り始めました。普段の生活では、あまり走るところは見ないのですが、やはりコントロールフラッグという目標があると、食いつきが違いますね。どうしても今日は上位に入りたいようです。

競技が終了した後も何度も何度も速報を確認に行きます。気になって気になって仕方がないようです。さて結果はグループで1位。満面の笑みで迎えた表彰式。そして受け取った金メダル。

普段の学校生活では金メダルを貰う事なんてありません。その誇らしいこと誇らしいこと。見ている私まで楽しくなってしまいます。

帰りの車でずっとメダルを首から架けていて、そのまま眠りかけていました。



会場のキャンプ場でハンモックに揺れるトモヨシ君

春の日差しが心地よい。

販った会場

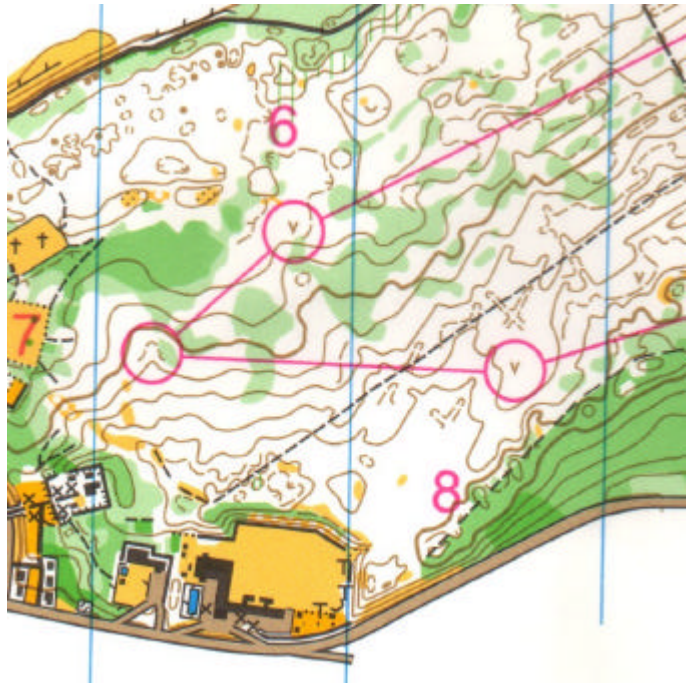
トレインと地図はインカレショート2001で使用した「加賀海岸」。地図とトレインは良いのが判っているの、参加者が集まるのかなと思っていました。しかし事前に送られてきたプログラムを見ると、意外とエントリー者が少なかったです。現実は結構厳しいのだな・・・と。

2002年4月7日(日)。夜のうちに降った雨も、朝までには上がり、暑くもなく寒くもない天気となりました。会場は当日参加者の列！



賑わう当日参加者受付
加賀の松林が参加者をいざ
なう

Aコース地図の一部
ひたすらコンパス直進で進む。
等高線間隔 2.5m



当日参加者でも正規コースを走れるとあってかなりの人数が当日に加賀海岸に来てくれました。

特に関西方面から多くの人に来てくれたようです。加賀からは遠い関東からも当日参加がそれなりにありました。

インカレコースに挑戦！

インカレショート of ME A-Final 体験コースが通常レースの後に開設されています。1回の参加で2度おいしい企画ですね。

とはいうものの、トモヨシ君には無理なので、グループコースが終わったら今度は私だけがこのA-finalに挑戦です。

私はインカレショート2001の実行委員長でありながら今まで一度も走ったことの無かったA-Final。さてどこまで学生に追いつくことができるか？

いきなり、ワッフル地形。ベルギーワッフルのような複雑な地形が出迎えてくれます。うーん地形が読めないのとあわせてコンパス直進。そのうちに地形も読めてきます。やっぱりこれはなかなか楽しい。プレートコンパスが威力を発揮しますねえ。

コンパス直進。ラフ&ファイン。エイミングオフ。おーすごい、すごい。ピシピシ当たるぞ。ラフ&リロケーション。うーんカンペキ。これって結構速くないかい？

さすがに後半は酸素が頭に回らなくなって、キレがなくなるがA-Final 最終コントロールまで26分台。これってインカレショートのA-Finalでも上位15人くらいには入れるぞ。

40歳になって全然走れないはずなのに、なんだか嬉しくなっちゃう。とちょっとゴキゲンなのでした。

あまりのオーバーペースでのレースだったので体がまいったのか、帰りに車を運転していると自分で気分が悪くなってきた。うげー。

今回の金沢大学大会は、運営人数が少ないように見えたが、参加者によるラップ記入所の設置や、セルフ計時による、A-Finalの体験レースなど、参加者に任せるところは任せており、参加者の期待に充分応える仕組みの運営だったと感じました。

(木村佳司)



会場は広い松林のキャンプ場。